

# LB

- データを消さずに簡単にパーティションを操作
- SSD/2TBを超える大容量ハードディスクへ対応
- 初めてでも安心! 図解中心のガイドブック付き

パーティションを簡単操作!

# パーティション ワークス 14 公式ガイドブック



パーティションツール

販売実績

**No.1**

※シリーズ合計、  
BCNランキングデータをもとに  
目次調べ(2006-2011.4)

ASCII

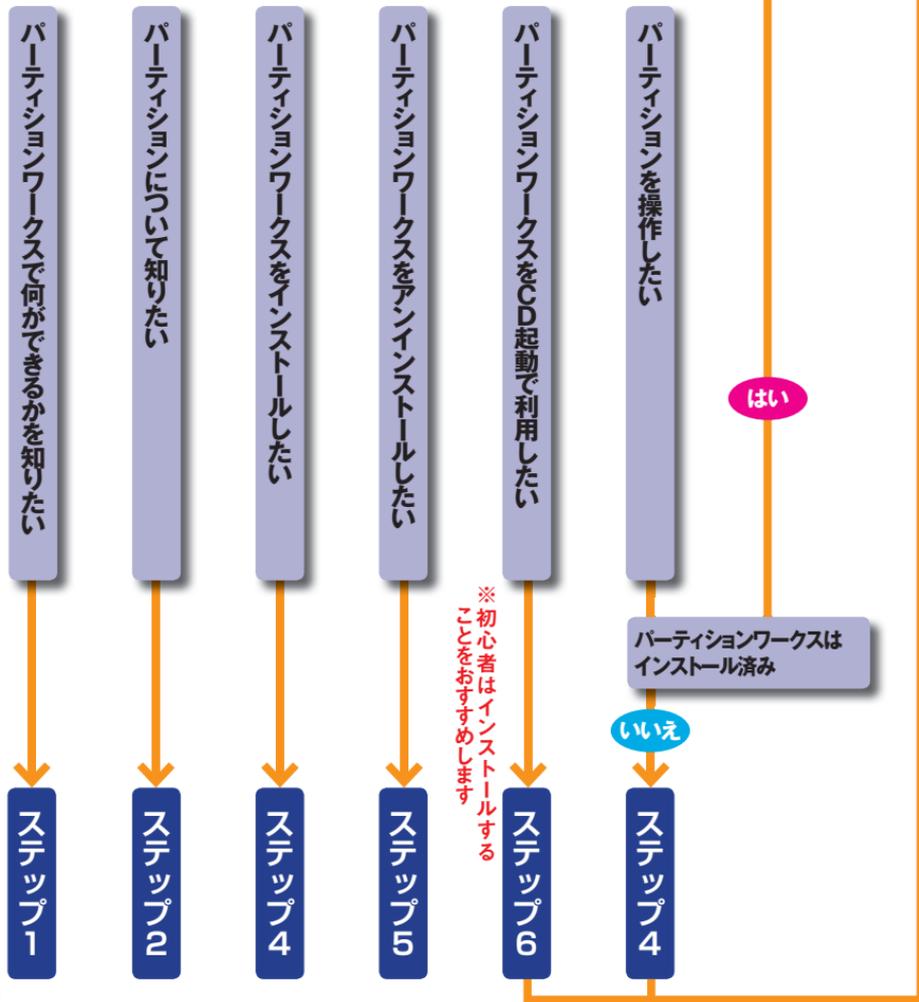


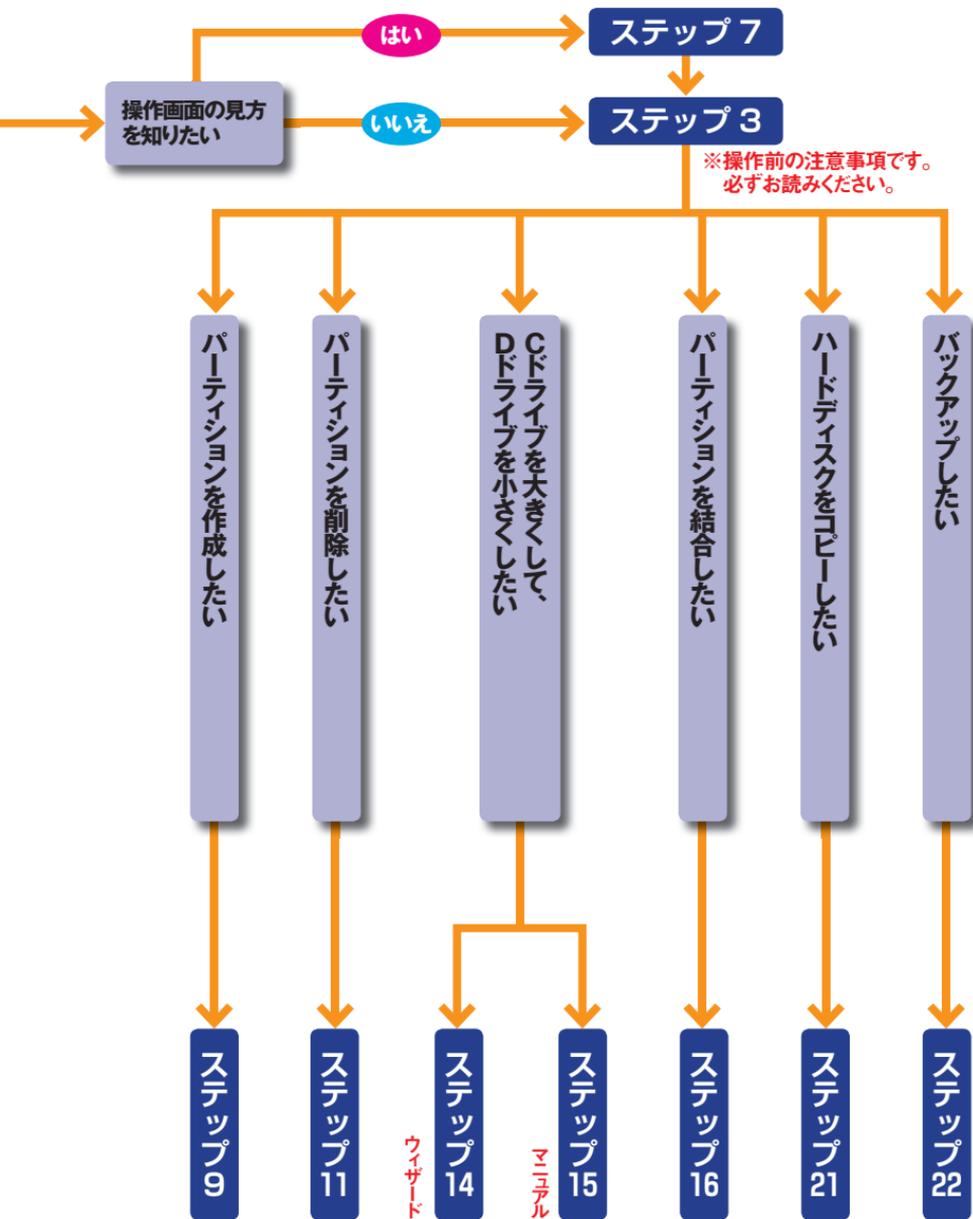
パーティションを簡単操作!

パーティション  
ワークス  
公式ガイドブック

# 目的別ガイド

初心者のためのガイドです。  
中級、上級者の方は、  
そのまま読み進めてください。





# CONTENTS

目的別ガイド.....	2
-------------	---

<b>STEP 1</b> パーティションワークスの特長.....	6
-----------------------------------	---

## パーティションワークスを利用する前に ..... 9

<b>STEP 2</b> パーティションとは.....	10
------------------------------	----

<b>STEP 3</b> パーティションワークスを使う際の注意事項.....	14
---	----

<b>STEP 4</b> パーティションワークスをインストールする.....	20
---	----

<b>STEP 5</b> パーティションワークスをアンインストールする.....	22
---	----

<b>STEP 6</b> CD起動でパーティションを操作する.....	24
--------------------------------------	----

<b>STEP 7</b> 操作画面の見方.....	28
----------------------------	----

<b>STEP 8</b> 仮想操作と「適用」ボタン.....	30
---------------------------------	----



<b>パーティションワークス</b> を利用する.....	31
<b>STEP 9</b> パーティションを作成する.....	32
<b>STEP 10</b> 拡張パーティションを作成する.....	34
<b>STEP 11</b> パーティションを削除する.....	36
<b>STEP 12</b> 削除したパーティションを元に戻す.....	38
<b>STEP 13</b> パーティションのサイズを変更する.....	40
<b>STEP 14</b> Cドライブを大きくして、Dドライブを小さくする (ウィザード) ...	42
<b>STEP 15</b> Cドライブを大きくして、Dドライブを小さくする (マニュアル操作) .....	44
<b>STEP 16</b> パーティションを結合する.....	46
<b>STEP 17</b> パーティションを移動する.....	48
<b>STEP 18</b> パーティションを非表示にする.....	49
<b>STEP 19</b> 拡張パーティションをサイズ変更 / 移動する.....	50
<b>STEP 20</b> パーティションをコピーする.....	52
<b>STEP 21</b> ハードディスクを丸ごとコピーする.....	54
<b>STEP 22</b> バックアップする.....	56
<b>STEP 23</b> バックアップイメージを確認する.....	58
<b>STEP 24</b> バックアップイメージからファイルを抽出する.....	59
<b>STEP 25</b> バックアップイメージを復元する.....	60
<b>STEP 26</b> ファイルシステムを変換する.....	62
<b>STEP 27</b> パーティションのタイプを変換する.....	63

# STEP 1

## パーティションワークスの特長

パーティションワークスを使えば、はじめてでも簡単にパーティションを操作できます。一般的なアプリケーションと同様な操作ができ、パーティションの管理に必要なさまざまな機能が含まれています。また、これらの各機能は、製品CDからパソコンを起動して、インストールすることなく使用することも可能です。

### Windows上からパーティション操作

パーティションワークスではWindowsの画面上から、パーティションの作成や削除、サイズ変更、結合などの操作が可能です。操作するパーティション内のデー

タを失わずに、これらの作業ができるため、すでに利用中のパソコンでも大きなパーティション構成の変更などを自在に行うことができます。

The screenshot shows the 'LB Partition Works' application window. The main pane displays the properties for the 'ローカル ディスク (C:)' (Local Disk C:). The properties include:

- ドライブ文字: (C:)
- ボリューム ラベル: [C:\ドライブ]
- ファイル システム: NTFS
- ルート エントリ: 16
- ブート単位のセクタ数: 0
- クラスタ単位のセクタ数: 1
- シリアル番号: 385E-ASF4-5E45-AB58
- パーティションID: 0x07 NTFS
- NTFS ボリューム ID: 211
- ボリューム サイズ: 1056.4 GB
- パーティションサイズ: 1056.4 GB
- 使用領域: 573.1 GB
- 空き領域: 479.1 GB
- アクティブ: はい
- 非表示: いいえ

On the left side, there is a sidebar with '基本的なパーティション操作タスク' (Basic Partition Operations) and '高度なパーティション操作タスク' (Advanced Partition Operations). The '基本的な' section includes: パーティションの作成, パーティションのフォーマット, パーティションの削除. The '高度な' section includes: 空き領域の移動, パーティションの結合, 削除されたパーティションの復元. Below these are sections for 'コピータスク', 'バックアップ/復元タスク', 'ツール', and 'ヘルプ/ドキュメント'. At the bottom, there is a 'ディスクマップ' (Disk Map) showing 'ベータックMBRハードディスク 0 (WDC WD20EAR5-00MW00 ATA Device)' with two volumes: 'ローカル ディスク (C:)' (1056.4 GB NTFS) and 'New Volume (D:)' (806.5 GB NTFS). A '変更なし' (No Change) button is at the bottom right.

パーティションの操作画面

## 製品CD-ROMから起動してパーティション操作

パーティションワークスの製品CD-ROMから起動して、パソコンにインストールすることなくパーティション操作を

行うことも可能です。起動のOSにはWindows PEが使われているため、インストールした場合と同じ操作で実行可能です。



製品CD-ROMからの起動画面

## ハードディスクのイメージを見ながら操作可能

パーティション操作時は、ハードディスクのパーティション構成がイメージとして図示された状態で行えるので、操作前や操作後のパーティションの状態が非常に把握しやすくなっています。



パーティションの構成状態をイメージとして表示

## ウィザード形式で簡単にパーティション操作

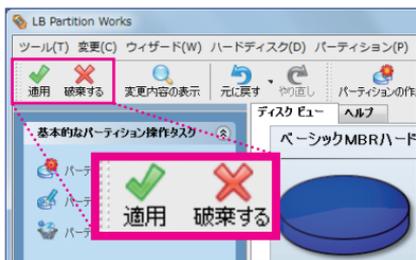
主要な機能の多くはウィザードによる対話形式で行えるため、難しい知識がなくとも多彩なパーティション操作が可能です。



多彩なウィザードを準備

## 操作の適用と破棄

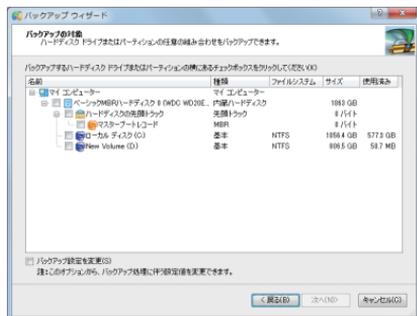
設定した操作は、すぐには実行されることはありません。いったんジョブとして保存され、保留されます。設定を反映させるには、ツールバーの「適用」をクリックします。そのため、設定を間違った場合でも、パソコンに深刻なトラブルを引き起こすことはありません。また、操作をやり直したいときは「破棄する」ボタンで操作をやり直すことができます。



「適用」ボタンと「破棄する」ボタン

## バックアップ機能

パーティション単位やドライブを丸ごとバックアップするなど、基本的なバックアップ機能を持っています。バックアップ先には外付けハードディスクをおすすめします。

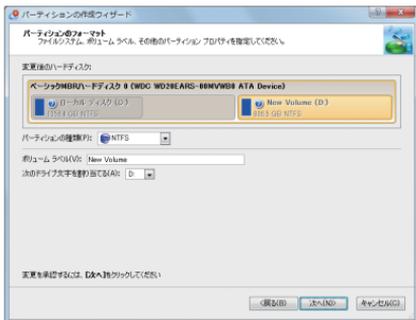


バックアップウィザード画面

## 多彩なファイルシステム、ハードウェアに対応

FAT16/32、NTFSなどの主要なファイルシステムに対応。ハードディスク/SSDもEIDEやIDE、SATA、SCSI、SAS

といった主要な接続方式に加え、USBやIEEE1394などの外付けハードディスクにも対応しています。



多彩なファイルシステムに対応



ファイルシステムやパーティションの種類の変換も可能

# パーティションワークスを利用する前に

パーティションワークスを利用する前に、  
知っておくべき知識や基本的な操作方法、  
注意点などを解説します。

# Partition Works

# STEP 2

## パーティションとは

パーティションワークスは、パーティションを操作するソフトです。では、この「パーティション」とは一体どういうもののでしょうか？ 本製品をきちんと使いこなすためにも、まずはパーティションについて理解しておきましょう。

### パーティションとは何か？

パーティションとは英語で「仕切ること」や「分割された部分」を指す言葉で、パソコンの世界では、1台のハードディスクを論理的に分割すること、もしくは、その分割した部分を意味します。

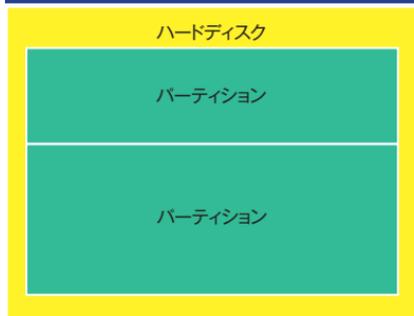
ハードディスクを論理的に分割するというのは、どのようなことを指すのでしょうか？ 一般的なパソコンには1台のハードディスクが内蔵されています。しかし、パソコンによっては、CドライブとDドライブのように内部的には、2つのドライブとして認識されている場合があります。

このように1台のハードディスクをコンピュータ上では2つのドライブとして見えるように容量を分割したそれぞれのドライブをパーティションと呼びます。

ハードディスクを複数のパーティションに分割することで、一方のドライブにWindowsなどのシステムを入れ、もう一方にデータを保存するといった使い分けが可能になります。このようにシステムとデータを別々のドライブに保存することで、システム不調時の対策やバックアップの利便性が高まります。

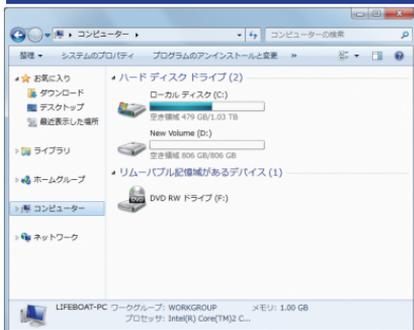
また、2つのドライブにそれぞれWindowsやLinuxといった別々のOSを入れて、OSを切り替えてパソコンを起動したりすることも可能になるのです。

### ハードディスクを分割する



1台のハードディスクの中身を複数に分割できる。分割した1つ1つをパーティションと呼ぶ。

### 1台のハードディスクを2つのドライブとして使う



パソコンにハードディスクが1台しか搭載されていなくても、パーティションで分割すれば、パソコンの上からは2つのドライブとして認識される。

## パーティションワークスを活用する

非常に便利なパーティションですが、1つ欠点があります。それはパーティションを扱うのは難しいということです。

たとえば、使っているパソコンのハードディスクが分割されていない場合、それを分割するには、基本的にOSの再インストールが必要になります。

また、300GBのハードディスクを150GBずつ2つに分けていたとしましょう。使っていくうちに片方は空き容量が多いのに、もう一方はファイルがいっぱいになってしまった場合、ファイルを消さずに、ひとつを100GBに縮小し、もうひとつを200GBにするといった調整はWindowsの機能ではできません。

パーティションワークスならば、難しい知識がなくても、パーティションを自由に操ることが可能です。ハードディス

クの内容を消さずに、1つのドライブを分割したり、分割しているハードディスクの2つのドライブの容量調整といったことも、Windows上でマウス操作だけで簡単に実現できます。

### パーティションを自在に操作



パーティションワークスなら、難しい知識がなくてもハードディスクの分割やパーティションのサイズ変更を自由に行える。

## 3種類のパーティションを使い分ける

パーティションには、「基本パーティション」「拡張パーティション」「論理パーティション」という3つの種類があります。この3つはそれぞれに違った役割を持っているので、きちんと使い分けることが必要です。

基本パーティションは、システムのインストールやデータの保存が可能なパーティションで、「基本領域」や「プライマリパーティション」とも呼ばれます。基本パーティションは、パソコン上では1つのドライブとして認識されます。

一方、拡張パーティションは作成しただけではパソコン上のドライブとして認識されない特殊なパーティションです。このパーティション上に直接データを保存することはできません。

論理パーティションは、この拡張パーテ

ィションの中に作成できるパーティションです。拡張パーティションに割り当てられた領域は、論理パーティションを作成してはじめてパソコンに認識され、データの保存が可能になります。拡張パーティションは、この論理パーティションを作成するための入れ物のように考えておけばいいでしょう。

### 3種類のパーティション

基本パーティション	ハードディスク上に直接作成でき、OSのインストールやデータの保存が可能なパーティション。
拡張パーティション	単体ではファイルの保存などが不可能な特殊なパーティション。内部に論理パーティションが作成可能。
論理パーティション	拡張パーティション内に作成するパーティション。データの保存は可能だが、システムのインストールは不可能。

## パーティション作成のルール

パーティションを作成するに当たっては、いくつかの制限があります。まず、基本パーティションは1台のハードディスク上に最大4つまでしか作成できません。ただし、その4つのパーティションのうちの1つを拡張パーティションとして作成した場合、拡張パーティション内に論理パーティションを複数作成することで、5つ以上に分割することが可能です。

拡張パーティションは1台のハードディ

スクに1つまでしか作成できません。しかし、拡張パーティション内に作成する論理パーティションの数に制限はありません。ただし、Windowsではドライブを光学ドライブ(CD/DVD/Blu-rayドライブ)などとあわせて最大で26個まで(うち「A」と「B」の2つはフロッピーディスクドライブ専用)しか認識しないため、大量に論理ドライブを作成しても、すべてを使えるわけではありません。

### パーティションの分割例



基本パーティションをハードディスク上に4つ作成。これ以上パーティションを増やすことはできないが、それぞれのパーティションにOSをインストールすることも、データを入れることもできる。



OSのインストール用の基本パーティションを1つ作成し、残りを拡張パーティションに。拡張パーティション内に4つの論理パーティションを持ち、合計で5つの領域を作成。



基本パーティションを2つ作り、拡張パーティション内には3つの論理パーティションを作る。2つのOSを切り替えながら、5つの領域を利用できる。

## パーティションとドライブ文字

Windowsではドライブを最大26個までしか登録できないのには理由があります。それは1つ1つのドライブに、A～Zまでの「ドライブ文字」や「ドライブレター」と呼ばれる文字を割り当てるからです。AとBはフロッピーディスク用に使われ、通常ハードディスクにはCから順番に文字が割り当てられます。パソコンを起動するときのドライブがCドライブなのは、こういった理由からです。

ドライブ文字は原則的に、C～Zまでの文字を認識した順番に割り振られます。たと

えば、パーティション分割していないハードディスク1台と光学ドライブが1台搭載されているパソコンの場合、ハードディスクがCドライブになり、光学ドライブがDドライブになります。

このときに、ハードディスクを2つのパーティションに分割した場合、Dドライブはすでに光学ドライブが使用しているため、分割した2つ目のパーティションはEドライブとなり、同じハードディスク上にあるドライブなのに連続した文字にならないことがあります。

## ファイルシステムとその種類

分割したパーティションは、特定の管理方式にしたがって初期化（フォーマット）してはじめて利用できるようになります。この決まりはファイルシステムと呼ばれていて、いくつかの種類があります。

Windows 7やVista、XPの場合、NTFSやFAT32を利用するのが一般的になっています。以下に、パーティションワークスで扱えるファイルシステムをまとめたのでご覧ください。

名前	特長	対応OS
FAT16	MS-DOSや初期のWindows95で使われていたファイルシステム。最大で2GBまでのパーティションしか扱えない。	MS-DOS / Windows95 / 98 / Me / 2000 / XP / Vista / 7 / 2003、Linux、FreeBSDなど
FAT32	2GBの容量制限をクリアし、大容量に対応させたファイルシステム。多くのOSに対応している。	Windows 95 OSR2以降 / 98 / Me / 2000 / XP / Vista / 7 / 2003、Linux、FreeBSDなど
NTFS	Windows NT / 2000 / XP / Vista / 7で使われるファイルシステム。ファイルの暗号化やアクセス制限など多くの機能を持つ。	Windows NT / 2000 / XP / Vista / 7 / 2003、Linux、FreeBSDなど
ext2 (※1)	Linuxで広く使われているファイルシステム。	Linux
ext3 (※1)	ext2を拡張したデータ変更の履歴を管理する機能を持ったもの。トラブルが起きた場合でも、短時間で復旧できる。	Linux
ReiserFS (※1)	Linuxで利用されるファイルシステム。ext3同様にデータ変更の履歴管理機能を持つ。小さなファイルが多いパーティションに強い。	Linux
Linux Swap2 (※1)	Linuxの仮想メモリ用パーティションで使われるファイルシステム。通常のデータ保存用には用いない。	Linux

(※1) 作成、削除のみサポート

# STEP 3

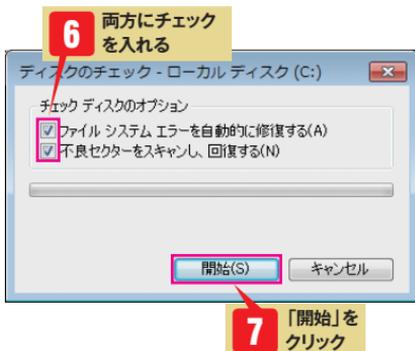
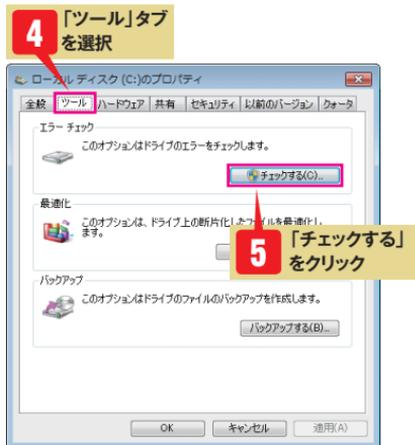
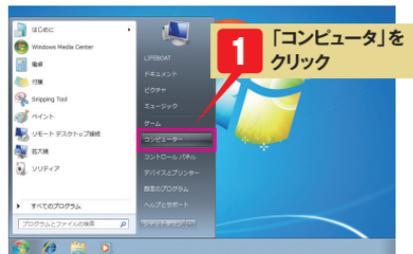
## パーティションワークスを使う際の注意事項(必ずお読みください)

パーティションワークスを利用してパーティション操作を行う際には、その前にやっておくべきことと、いくつかの注意点があります。このページの注意事項をよく読んだ上で、事前にハードディスクのエラーチェックやバックアップを必ず行ってください。

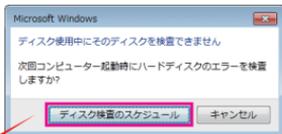
### ハードディスクのエラーチェックを実行 (Windows Vista/7の場合)

ハードディスク上のデータにエラーがあったり、書き込み領域に欠陥がある場合、パーティション操作中にトラブルが起きて、最悪の場合ハードディスクが使えなくなる可能性があります。そのため、本製品を使ってパーティションの操作を行う前に、ハードディスクのエラーチェックを行って問題を修復する必要があります。

Windows Vista/7でエラーチェックを行うには、以下の操作を実行してください。



何回かエラーチェックを行っている場合は、6の操作で「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」のみを有効にします。



## 8 「ディスク検査のスケジュール」をクリックし、パソコンを再起動

エラーチェックするドライブが使用中の場合はこの画面が表示され、再起動後にエラーチェックが実行される

```
The type of the file system is NTFS.
A disk check has been scheduled.
Windows will now check the disk.

CHKDSK is verifying files (stage 1 of 3)...
44032 file records processed.
File verification completed.
34 large file records processed.
0 bad file records processed.
2 EA records processed.
31 repair records processed.
CHKDSK is verifying indexes (stage 2 of 3)...
64340 index entries processed.
1 index verification done for each of 3...
0 undindexed files scanned.
0 undindexed files recovered.
CHKDSK is verifying security descriptors (stage 3 of 3)...
44032 file sds/uids processed.
Security descriptor verification completed.
10418 data files processed.
chkdsk is verifying usn journal...
```

Windows Vista/7の起動途中、この画面が表示されエラーチェックが実行される。エラーチェックが終了したらログオンする

エラーチェックの結果は、「コンピュータの管理」にあるイベントビューアのアプリケーションログに記録されます。問題が解決しているか確認しましょう。



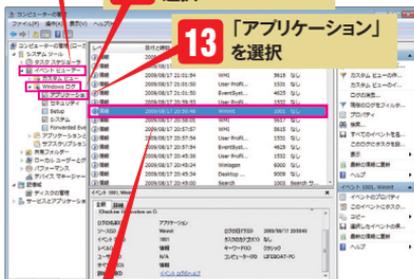
## 9 「コンピュータ」を右クリック

## 10 「管理」を選択

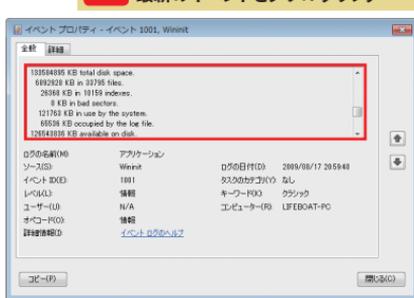
## 11 「イベントビューア」を選択

## 12 「Windowsログ」を選択

## 13 「アプリケーション」を選択



## 14 ソース欄に「Wininit」と表示された最新のイベントをダブルクリック



この画面が表示されたら、赤く囲った説明欄に「0 KB in bad sectors」と表示されていることを確認してください。このメッセージの「KB」の前の数値が「0」ではない場合、ハードディスクに不良セクタ(bad sector)があることを意味するため、パーティション操作はできません。

次に「Cleaning up \* unused～」という表示があるかどうかを確認します。「\*」の部分の数値が多い時は6の「ファイル システムエラーを自動的に修復する」のみにチェックして、再度エラーチェックを行い、「Cleaning up \* unused～」の表示がなくなるか、少なくとも「\*」の数値が1桁になるまで、エラーチェックを何回か繰り返してください。

## ハードディスクの断片化を解消する (Windows Vista/7の場合)

ハードディスクを長く使っていると、ひとつのデータがハードディスク上の複数の位置にまたがって保存される「断片化」が発生します。この状態でパーティション操作を行うと、処理時間が長くなる可能性があります。またトラブルの原因ともなります。Windows Vista/7には自動的に断片化を解消する機能がありますが、パーティションを操作する前に、念のため、事前にハードディスクの最適化(デフラグ)の作業を手動で行ってください。

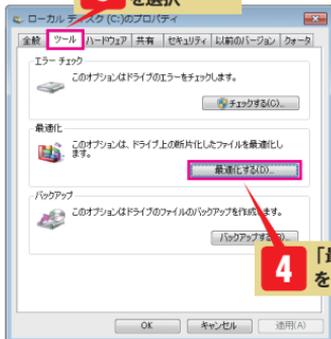
### 1 デフラグするドライブを 右クリック



### 2 メニューの「プロ パティ」を選択

「コンピュータ」を開く

### 3 「ツール」タブ を選択



### 4 「最適化する」 をクリック



### 5 「ディスクの最適 化」をクリック

パーティション操作の対象となるすべての  
ドライブに対してデフラグを実行する

## ハードディスクのエラーチェックを実行 (Windows XPの場合)

Windows XPの場合は、以下の手順にしたがってハードディスクのエラーの確認と修復を行います。



### 1 「マイコンピュータ」 をクリック

### 2 エラーチェックするドライ ブを右クリック



### 3 メニューの「プロ パティ」を選択





## 操作前のバックアップは必須

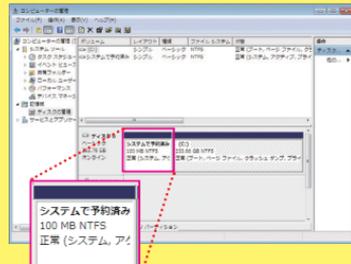
パーティションワークスは、ハードディスク上のデータ領域やシステム起動情報を、直接変更します。そのため、使用中に何らかのトラブル(お客様の操作ミスも含む)が発生すると、Windowsが起動しなくなってしまうたり、データがなくなってしまう可能性があります。

パーティションワークスには、パーティション操作中の電源トラブルに対しては復旧するための安全対策が施されていますが、すべてのトラブルに対応できるものではありません。

とくに、お客様自身で作成されたデータファイルは、トラブルにより復旧できなくなる可能性がありますので、必ずバックアップを行ってください。またバックアップは、外付けハードディスク、CD、DVD、USBメモリなど、外部メディアに保存してください。

## Windows 7の起動用パーティションは削除しない

Windows 7ではインストールの方法やパソコンのメーカーによって、システムがインストールされているパーティションとは別に、100MBの起動用のパーティションを確保していることがあります。このパーティションを削除するとWindows 7が起動しなくなってしまうので、注意してください。



※起動用のパーティション[システムで予約済み]というボリュームラベルが付けられています。

## 操作中は電源を切らない

パーティション操作の処理中、画面が停止(フリーズ)したように見えることがあります。しかし、その場合も内部的な処理が行われています。このとき電源を切ると、データを消失してしまう危険がありますので、電源は切らないで作業が終了するのを待ってください。

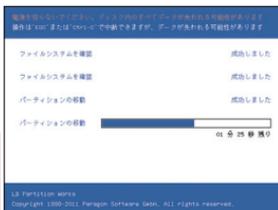
また「キャンセル」ボタンも、処理を強制的に終了させることになりませんので、むやみにクリックしないでください。

やむをえず電源を切らなければいけない場合は、パソコン本体のハードディスクのアクセスランプが消灯しているか、「点滅していない」ことを必ず確認してください。



## Windows上で のパーティション操作 中の画面

## 再起動処理時に表示 されるパーティション 操作中の画面



# STEP 4

## パーティションワークスをインストールする

パーティションワークスを利用するには、パソコンにインストールして使う方法と、製品のCD-ROMから起動して利用する方法の2つがあります。ここではパソコンにインストールする方法を解説します。

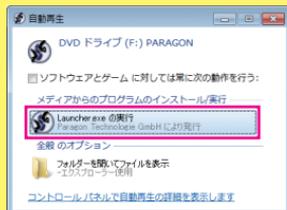
### 製品CD-ROMをパソコンに挿入

パーティションワークスの製品CD-ROMをパソコンに挿入すると、製品をインストールするためのソフトウェアが自動的に起動します。以後、画面の指示にしたがっていけば、パーティションワークスがインストールできます。

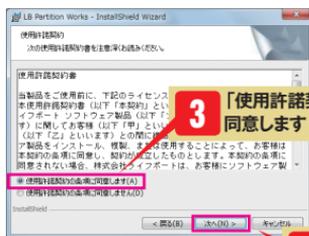
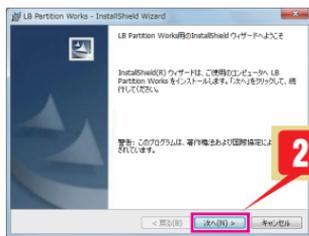


※空き領域が少ない場合は、ステップ6を参考にCD起動での操作をおすすめします。

**!** パソコンの設定によっては、上のようなインストール用のソフトウェアが自動的に起動せずに、下のような画面が表示されることがあります。このような場合、「Launcher.exeの実行」をクリックしてください。



「Launcher.exeの実行」をクリックすれば、インストール用のソフトウェアが起動する。

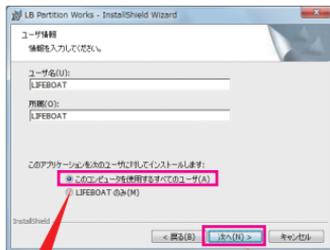


4 「次へ」をクリック



6 「次へ」をクリック

**!** シリアル番号は、パッケージ版の場合、同梱されている「ユーザー登録カード」に、ダウンロード版の場合、「購入時のメール」に記載されています。アップグレード版は、この後に旧製品のシリアル番号の入力が求められます。



**7** 「このコンピュータを使用するすべてのユーザ」を選択

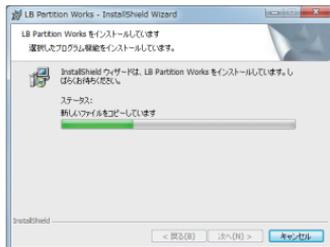
**8** 「次へ」をクリック



**9** 「次へ」をクリック



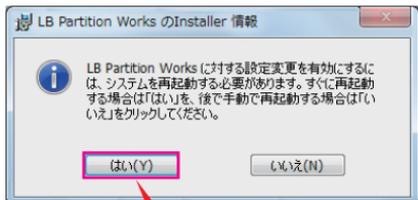
**10** 「インストール」をクリック



インストール作業が実行されるので、終了するのを待つ

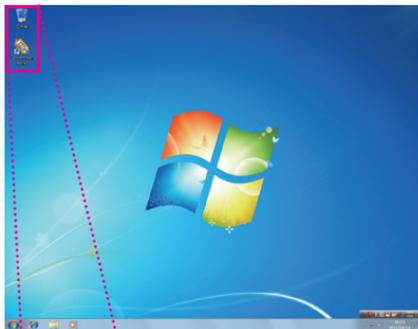


**11** 「完了」をクリック



**12** 「はい」をクリック

**!** 「はい」をクリックする前に、CD-ROMを取り出してください



再起動後、デスクトップ上に「LB Partition Works」のアイコンが追加され、パーティションワークスが使える状態になる

# STEP 5

## パーティションワークスをアンインストールする

パーティションワークスを使わなくなった場合、アンインストールできます。アンインストールはWindowsの「コントロールパネル」から行います。

### コントロールパネルからアンインストール

パーティションワークスのアンインストール作業は以下の手順で行います。なお、パーティションワークスをアンインストールした後でも、再インストールするか、CDからの起動で再びパーティション操作を行うことができます。



**1** 「スタート」ボタンをクリック

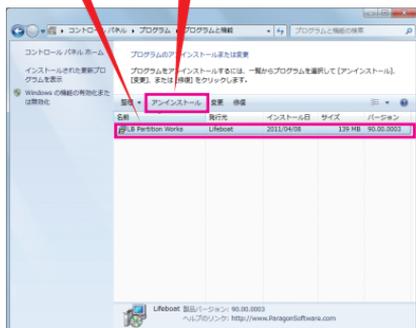
**2** 「コントロールパネル」をクリック



**3** 「プログラムのアンインストール」をクリック

**4** プログラム一覧から「LB Partition Works」を選択

**5** 「アンインストール」をクリック



## 再起動してアンインストール完了

パーティションワークスのアンインストールは、アンインストール作業後にパソコンを再起動して完了します。他のアプリケーションを利用している場合はそれらを終了させてから、下の画面で「完了」をクリックしてください。



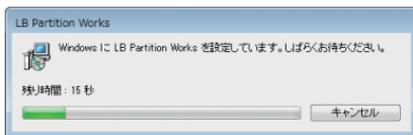
6 「はい」をクリック

アンインストールの確認画面が表示される

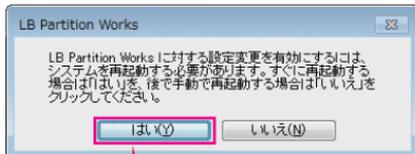


7 「はい」をクリック

Windows Vista/7の場合、ユーザーアカウント制御画面が表示される



アンインストールが実行されるので終了を待つ



8 「はい」をクリック

パーティション操作後にアンインストールしても、操作したパーティションが元に戻ることはありません。

# STEP 6

## CD起動でパーティションを操作する

パーティションワークスは、Windows上にインストールせずに、CD-ROMから直接起動してパーティション操作やコピーを実行することもできます。ただし、いくつか制限事項と注意点がありますので、事前に理解しておいてください。

### CDから起動してパーティション操作

製品CD-ROMから起動すると、Windows PE上でパーティション操作やコピーが可能になります。

ユーザーインターフェースや操作性は、パーティションワークスをパソコンにインストールして使用する場合と同じです。



CD起動時の起動画面

### CD起動時の制限事項

製品CDから起動した場合、以下の制限があります。

- ① ハードディスクの認識順がWindows上とは異なるため、外付けハードディスクが1番目のハードディスクとして表示される場合があります。

- ② ドライブ文字 (C: など) は、CD起動時に一時的に割り当てられたものになります。そのため、Windows上とは異なる場合が多く、CD起動時にドライブ文字を変更しても、Windows上には反映されません。
- ③ 72時間以上継続して使用することができません。起動から72時間後に、自動的に再起動されます。



パーティション操作を行う前に、必ずステップ3を参考にエラーチェックを行ってください。

### BIOSの設定を確認する

パーティションワークスを製品CD-ROMから起動して利用するには、パソコンがCD-ROMからの起動をサポートしている必要があります。

また、サポートしている場合でもパソコン起動時のメーカーロゴ画面で[F12]などのキーを押して、「ブートメニュー」を表示し、光学ドライブを指定しなければならない機種や、BIOSでシステムを読み込むデバイスの優先順位を変更しなければならない機種もあります。CD起動のサポートの有無、ブートメニューを表示するための指定キー、BIOSの設定方法などは、パソコンのマニュアルを参照するか、製造元に確認ください。



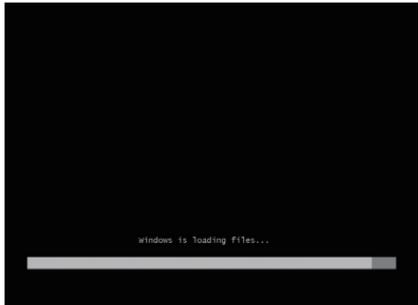
ブートメニュー画面



BIOSの設定画面

## CDからの起動方法

パーティションワークスは、CDから直接起動することができます。起動後の操作はパソコンにインストールした場合とほぼ同じです。ここではCDから起動する方法を解説します。まずは、パソコンを起動し、パーティションワークスのCDをドライブにセットして再起動します。再起動後は、以下の解説にしたがって操作してください。



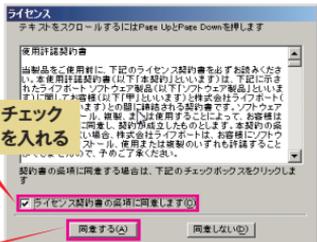
Windows PEの起動準備が始まる



WindowsPEが起動



スタートユーティリティがIMEの開始、ハードウェアの確認を実行する



2 「同意する」をクリック

### 3 「LB パーティションワークス」をクリック



アプリケーションランチャが表示される

#### LB パーティションワークス

パーティションワークスを起動して、パーティション操作 / バックアップ / 復元 / コピーを実行することができます。

#### ファイル転送ウィザード

ファイル転送ウィザードを起動して、ファイルやフォルダを別ドライブまたはCD / DVDに保存することができます。

#### ドライバのロード

CD起動時に標準でサポートされていないサードパーティ製のRAID、SCSI ドライバやネットワークドライバを追加することができます。

#### ブートコレクタ

マスターブートレコードやパーティションブートレコードを修正するためのウィザードを起動できます。

#### ネットワークの構成

ネットワークの設定を行うことができます。IPアドレス等を手動で設定したい場合に利用します。

#### ログセーバー

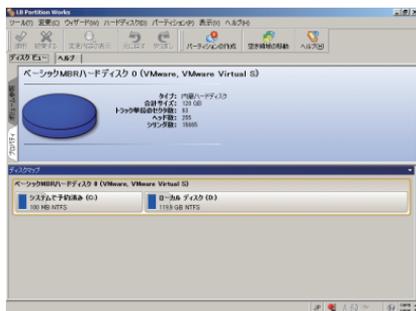
CD起動時に行った操作の記録を保存するための機能。

#### 再起動

システムを再起動します。

#### シャットダウン

システムをシャットダウンします。

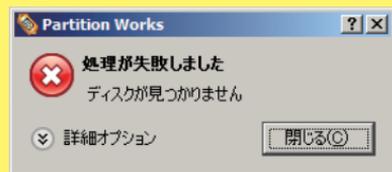


パーティションワークスが起動する

以上の操作でWindows PE上でパーティションワークスが起動して、パーティションのコピーや削除、移動などが可能になります。



ハードディスクが認識できない場合、左のような警告画面が表示されます。このようなときは27ページの「ドライバのインストール」を参照して、ハードディスクのドライバを追加してください。



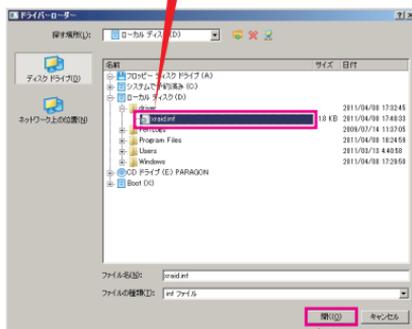
## ドライバのインストール

CDでの起動時は、RAID構成のHDDや一部の外付けHDDなどのハードディスクが認識できない場合があります。その場合、ドライバーをインストールすることで、認識できるようになります。事前にドライバーが含まれるフロッピーディスクやUSBメモリを用意して下さい。

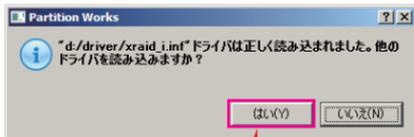
### 1 「ドライバのロード」をクリック



### 2 保存先を参照してドライバのファイルを選択



### 3 「開く」をクリック



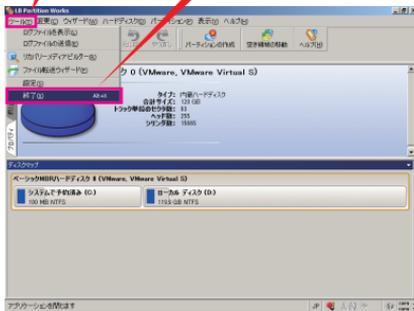
### 4 「はい」をクリック

## CD起動の終了手順

CD起動による操作が終了したら、CDをドライブから取り出して再起動、または電源を切ります。

### 1 「ツール」をクリック

### 2 「終了」をクリック



### 3 「シャットダウン」をクリック

# STEP 7

## 操作画面の見方

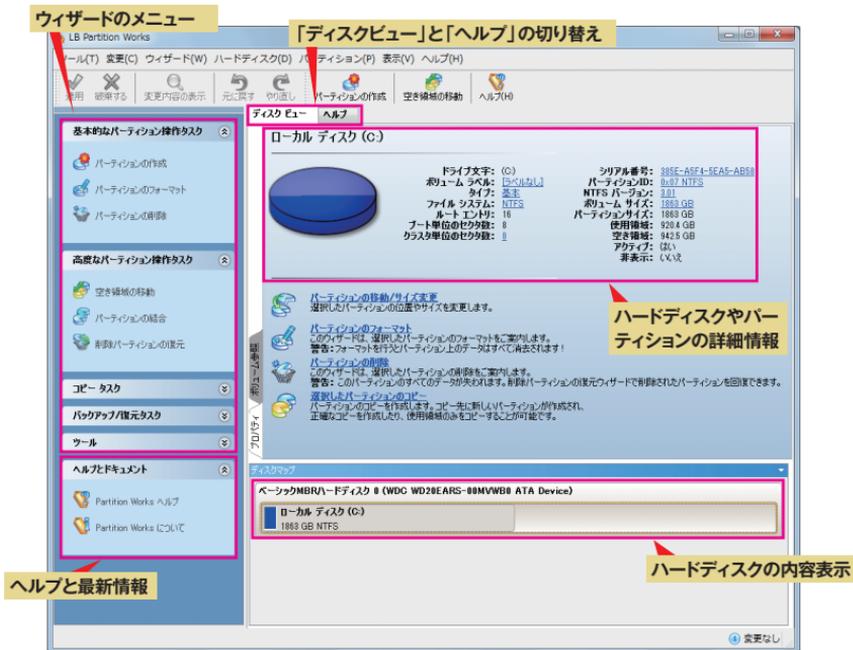
パーティションワークスを使いこなすために、まずは各操作画面の見方を確認しておきましょう。

### ディスクビューのタブ

パーティションワークスは、「ディスクビュー」が表示された状態で起動します。ほとんどの操作は、このディスクビューから実行します。

メニューバー下のツールバーには「パーティションの作成」「空き領域の移動」など、よく使う操作がボタンとして並び、すぐに実行することができます。

また、画面左には「ウィザードのメニュー」があり、ここにもよく使う機能が表示されます。「ウィザードのメニュー」の右側の部分には、選択されたハードディスクの情報が表示されます。また、ハードディスク内のパーティションをクリックすると、そのパーティションに関する情報が表示されます。

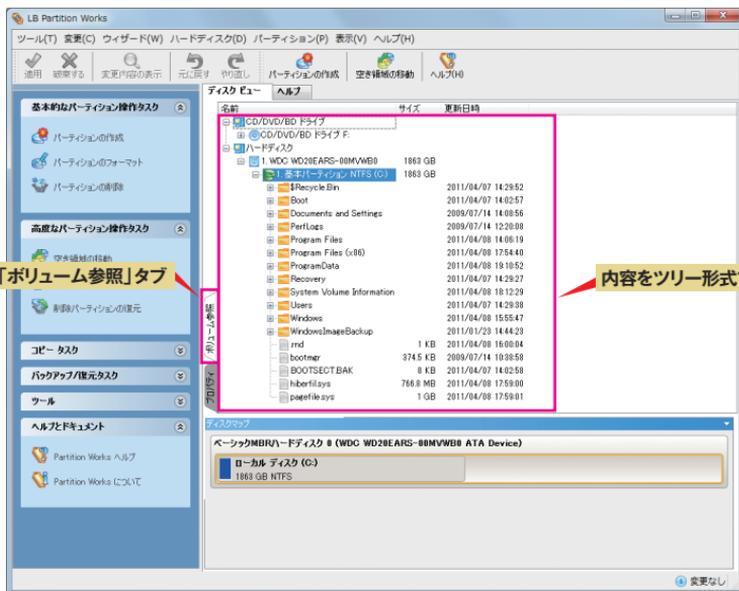


※CD起動の場合は、ウィザードのメニューが表示されないなど、一部画面の構成が違います。

## ボリューム参照のタブ

ディスクビューの左下にある「ボリューム参照」タブをクリックすると、ハードディスク内のドライブや、CD/DVD内部の情報をつリー状に表示して確認することができ

ます。  
また、バックアップ機能で作成したバックアップイメージの中身を調べたり、そこからファイルを取り出すこともできます。



# STEP 8

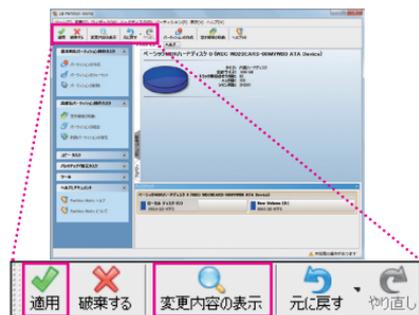
## 仮想操作と「適用」ボタン

パーティションワークスでは、間違ったパーティション操作を防ぐために、操作の後に改めて「適用」ボタンを押すまで実際には操作内容が実行されない「仮想操作」という手法をとっています。

### 仮想操作でトラブルを防ぐ

パーティション操作は間違えると、ハードディスクの内容をすべて失ってしまう可能性があります。パーティションワークスでは、その対策として、操作した内容を、その場で実行せずに、保留する仮想操作という手法をとっています。操作した内容を実際のハードディスクに反映するには、改めて「適用」ボタンを押す必要があります。

操作を行ってから、実際に処理を行うまでにワンクッションおくことで、ちょっとした操作ミスが大きなトラブルにならないように防いでいるのです。



1 「適用」をクリック



適用するかを再度確認される



実際の処理が始まる

！ 適用後の画面が表示されたら、パソコンの電源を切らないように注意してください。

### 処理内容の確認方法

また、「適用」ボタンを押すまでは、実際の処理が行われないことを利用して、複数のパーティション操作を行った後に、まとめて「適用」を押して、複数の処理を一括して行うことも可能です。

「適用」を押す前に、同じ列の「変更内容の表示」ボタンを押すと、適用される処理の前後のハードディスクのイメージを比べてみる事が可能です。



処理内容がリスト表示され、また処理前と処理後のハードディスクのイメージが比較できる

# パーティションワークスを利用する

パーティションワークスを使ってパーティションを操作するさまざまな方法を解説します。

# Partition Works

# STEP 9

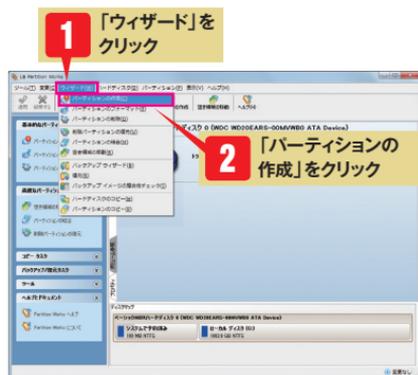
## パーティションを作成する

新しいパーティションを作成します。ハードディスクがCドライブだけの場合でも、ハードディスク内のデータを削除することなく、空き領域を利用してDドライブを作成できます。操作はウィザード形式で、質問に答える形で進めます。

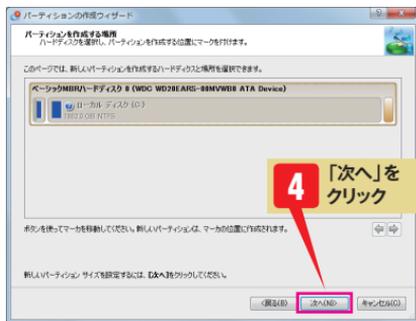
### ウィザードでパーティションを作成する

「パーティションの作成ウィザード」を使い、パーティションのサイズや種類を指定してパーティションを作成します。

操作を実行する前にステップ3のエラーチェックを必ず実行してください。



「パーティションの作成ウィザード」が起動する



パーティションを作成するハードディスクと場所を選択する。複数のハードディスクがあるときは、ここで対象のハードディスクを選択する



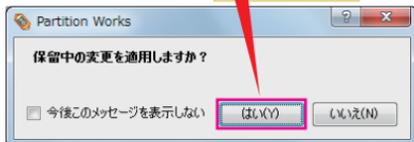
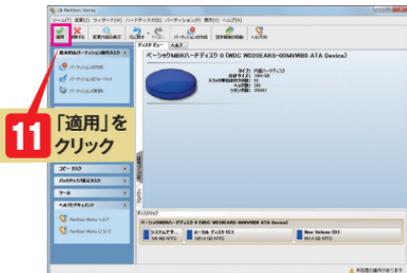
6 指定したら「次へ」をクリック



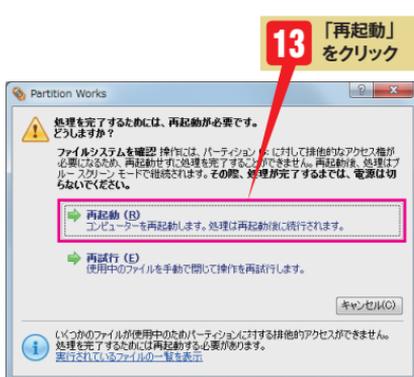
ウィザードによる作業が完了する

## 変更を適用する

ウィザードでの設定が完了しても、パーティションの作成は実行されていません。パーティションワークスの画面から「適用」ボタンを押すことで、パーティションの作成が始まります。



変更の適用を確認する画面が表示される



しばらくすると、この画面が表示される

電源が切れないでください。システムが正常に動作できなくなる可能性があります。操作はESCまたはCtrl+Cで中断できますが、データが失われる可能性があります。

ファイルシステムを確認	成功しました
パーティションの移動	成功しました
パーティションの移動	成功しました
パーティションを作成	準備中です
パーティションをフォーマット	

LB Partition Works  
Copyright 1998-2011 Paragon Software GmbH. All rights reserved.

再起動後にパーティションが作成される。作成後、ハードディスクのエラーチェックが自動で実行され、Windowsが起動する

# STEP 10

## 拡張パーティションを作成する

新しいパーティションを作成するときに拡張パーティションを選んだ場合、拡張パーティション作成後に論理パーティションを作成しないとドライブとしては利用できません。

### 拡張パーティションを作成

ハードディスクの空き領域に拡張パーティションを作成します。

1 「未割り当て」領域を選択

2 「パーティション」をクリック

3 「パーティションの作成」を選択

Detailed description: This screenshot shows the Windows Disk Management console. A red box highlights the '未割り当て' (Unallocated) space. A red arrow points to the 'パーティション' (Partition) button in the 'アクション' (Action) pane. Another red arrow points to the 'パーティションの作成' (Create Partition) option in the 'パーティションの作成' (Create Partition) pane. A red box highlights the '111.4 GB' value in the 'パーティションの作成' pane.

### 論理パーティションを作成

作成した拡張パーティション内に論理パーティションを作成します。論理パーティションは拡張パーティション内に複数作ることもできます。

4 作成した拡張パーティションを選択

5 「パーティション」をクリック

6 「パーティションの作成」を選択

Detailed description: This screenshot shows the Windows Disk Management console. A red box highlights the newly created extended partition. A red arrow points to the 'パーティション' (Partition) button in the 'アクション' (Action) pane. Another red arrow points to the 'パーティションの作成' (Create Partition) option in the 'パーティションの作成' (Create Partition) pane. A red box highlights the '111.4 GB' value in the 'パーティションの作成' pane.

4 「拡張パーティション」を選択

5 「はい」をクリック

Detailed description: This screenshot shows the 'Partition Works' dialog box. The 'パーティションの種類' (Partition Type) is set to '拡張パーティション' (Extended Partition). The 'パーティションのサイズ' (Partition Size) is 811.4 GB. A red box highlights the 'はい' (Yes) button. A red arrow points to the 'はい' (Yes) button.

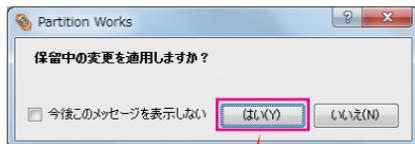
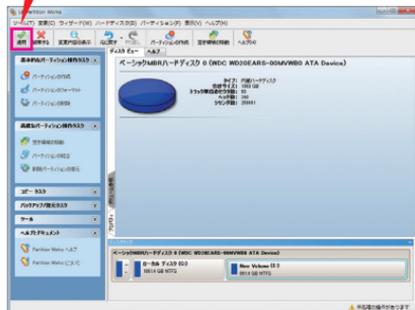
6 「はい」をクリック

Detailed description: This screenshot shows the 'Partition Works' dialog box. The 'パーティションの種類' (Partition Type) is set to 'New Volume (E)'. The 'パーティションのサイズ' (Partition Size) is 811.4 GB. A red box highlights the 'はい' (Yes) button. A red arrow points to the 'はい' (Yes) button.

## 適用をクリック

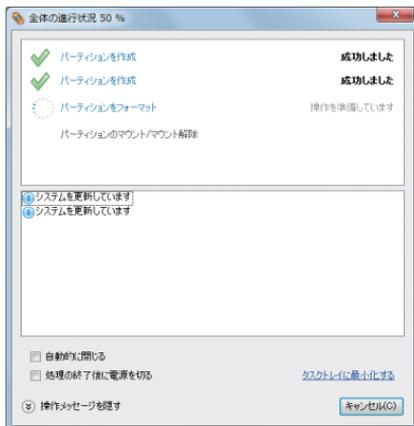
拡張パーティションと論理パーティションを作成したら、「適用」ボタンをクリックすることで、2つのパーティションが作成されます。

## 10 「適用」をクリック

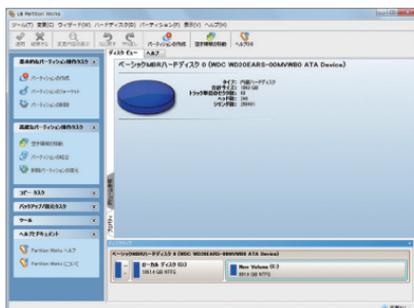


## 11 「はい」をクリック

変更の適用を確認する画面が表示される



進行状況が表示される



ディスクビューに戻るので、作業が正しく行われたことを確認する

# STEP 11

## パーティションを削除する

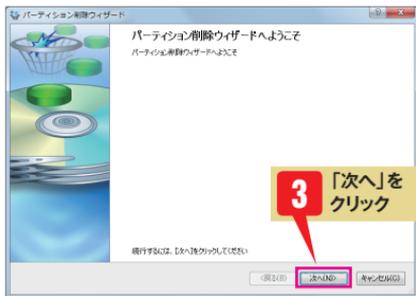
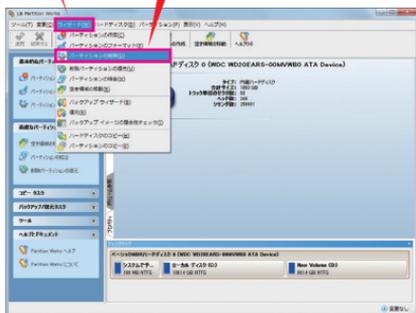
ハードディスク内のパーティションを削除することができます。パーティションを削除した場合、保存しているプログラムやデータはすべてなくなります。慎重に作業を進めてください。

### ウィザードでパーティションを削除する

ハードディスク内のパーティションの削除は、「パーティション削除ウィザード」から行います。

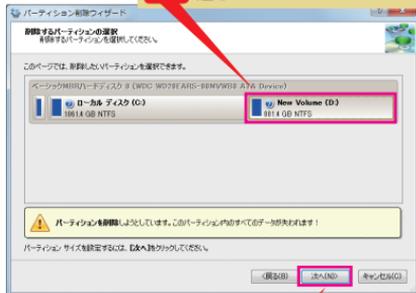
1 「ウィザード」をクリック

2 「パーティションの削除」をクリック



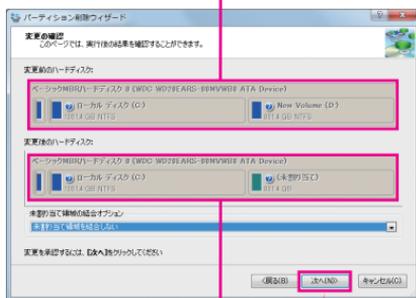
「パーティション削除ウィザード」が起動する

4 削除したいパーティションを選ぶ



5 「次へ」をクリック

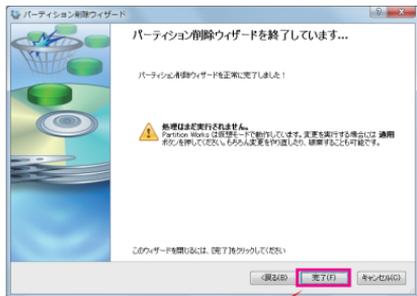
現在の状態



適用後の状態

6 「次へ」をクリック

現在のハードディスクと削除した後のハードディスクの状態が表示されるので、その内容を確認する



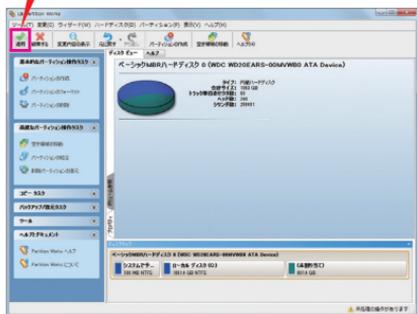
7 「完了」をクリック

## 変更を適用する

ウィザードが完了しても、パーティションの削除は実行されていません。指定した変更を適用すると、パーティションが削除されます。

パーティションに入っているプログラムやデータはすべて削除されます。

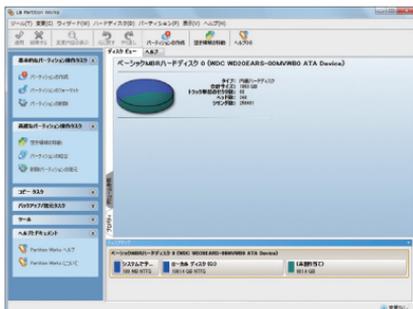
8 「適用」をクリック



変更の適用を確認する画面が表示される



削除作業の進行状況が表示され、削除が完了すると結果が表示される



ディスクビューに戻るので、削除が正しく行われたことを確認する

Windows 7の起動用パーティションは削除しないでください。くわしくは19ページを参照してください。

# STEP 12

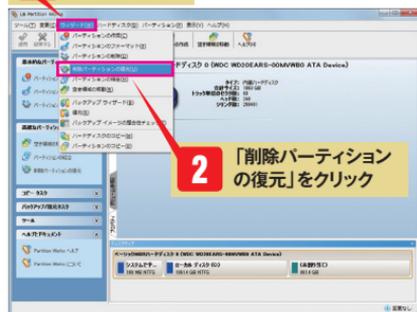
## 削除したパーティションを元に戻す

ハードディスク上から削除したパーティションを元に戻します。

### 間違って削除したパーティションを復活

パーティションワークスでは、削除したパーティションを元に戻すことができます。ただし、削除後にパーティションの作成やフォーマット、サイズ変更、移動などを行った場合、復元できません。また、そのような操作をしていない場合でも、削除したパーティション内にあったデータが完全に復元されることを保証するものではありません。

#### 1 「ウィザード」をクリック

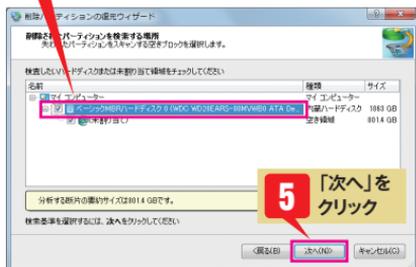


#### 2 「削除パーティションの復元」をクリック



「削除パーティションの復元ウィザード」が起動する

#### 4 復元したいパーティションが存在していたハードディスクにチェックを入れる



#### 5 「次へ」をクリック



#### 7 「次へ」をクリック

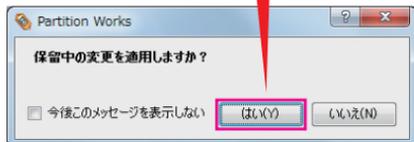
※「クイックサーチ」で見つからない場合は、下の2つのオプションを選択してください。



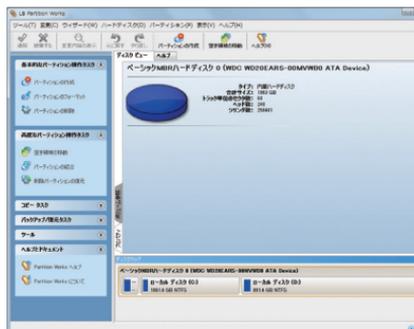
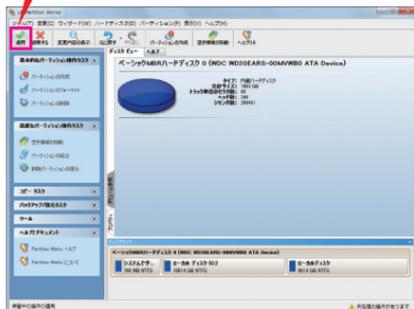
削除したパーティションの検索が始まる

8 復元したいパーティション  
にチェックを入れる9 「次へ」を  
クリック検索で削除されたパーティションが見つかるど、  
一覧に表示される10 「完了」を  
クリック

ウィザードによる作業が完了する

12 「はい」を  
クリック

変更の適用を確認する画面が表示される

13 「閉じる」を  
クリック復元処理の進行状況が表示、復元が終わると  
結果が表示される11 「適用」を  
クリックディスクビューに戻るので、復元が正しく行わ  
れたことを確認する

# STEP 13

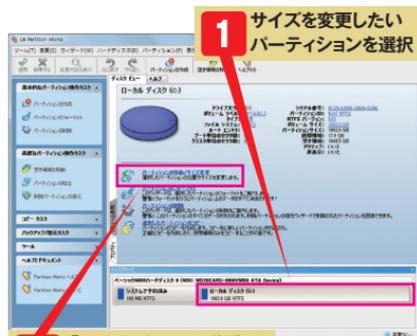
## パーティションのサイズを変更する

パーティション内のデータを削除せずに、パーティションのサイズを小さくすることができます。また、ハードディスク内に未割り当ての領域があれば、パーティションのサイズを大きくすることも可能です。

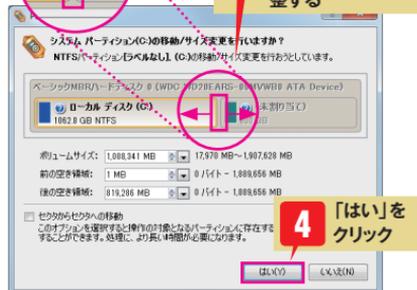
### パーティションを縮小する

パーティションのサイズを変更し、縮小すれば、ハードディスク内に未割り当て領域を作ることができます。

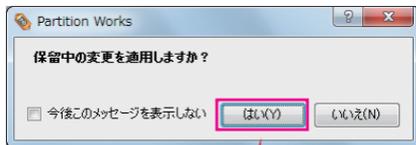
作業前にステップ 3 で解説したエラーチェックを必ず実行してください。



2 「パーティションの移動/サイズ変更」をクリック



5 「適用」をクリック



## パーティションが使用中の場合

サイズを変更したいパーティション内でWindowsやアプリケーションなどが利用されている場合、再起動を促すメッセージが表示されます。再起動後、サイズ変更の処理が行われてから、Windowsが起動します。なお、再起動前に利用しているプログラムがあるときは、必ずそれを終了させてから行ってください。

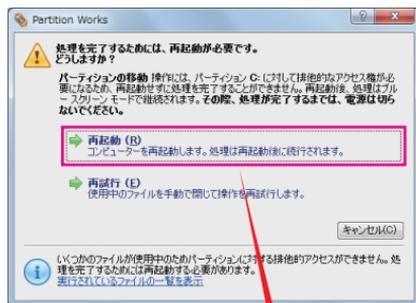


変更作業の進行状況が表示され、完了すると結果が表示される

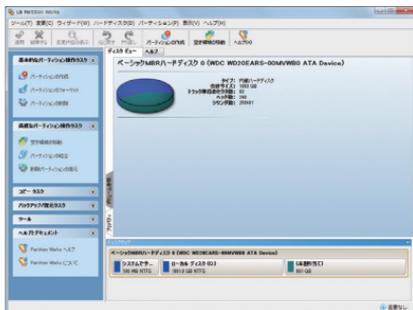
7 「閉じる」をクリック



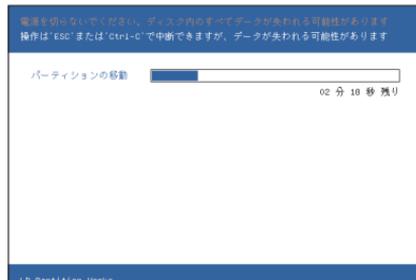
パーティションの処理中は、絶対に電源を切らないでください。



8 「再起動」をクリック



ディスクビューに戻るので、変更が正しく行われたことを確認する



再起動後にサイズ変更の処理が実行される



パーティションの処理中は、絶対に電源を切らないでください。

# STEP 14

## Cドライブを大きくして、Dドライブを小さくする(ウィザード)

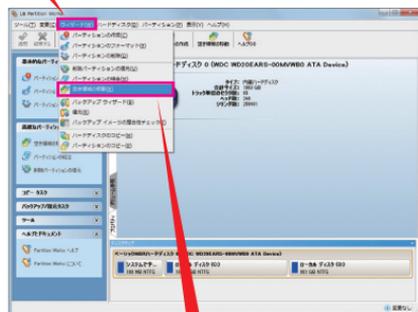
ハードディスク内に2つのパーティションがあるとき、その容量の比率を変更できます。

### 2つのパーティションの比率を変更

1台のハードディスクしか搭載していないパソコンに、CドライブとDドライブがある場合、すでにハードディスクはパーティションで分割されています。パソコンによっては、付属リカバリCDなどで2つのパーティションの容量を変更することができますが、その場合、システム自体を入れなおすため、ハードディスク内のデータなどは消えてしまいます。しかし、パーティションワークスを利用すれば、今使っているパソコンをそのままに、両方のドライブの空き領域を調節して、CドライブとDドライブの比率を変更することが可能です。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

#### 1 「ウィザード」をクリック



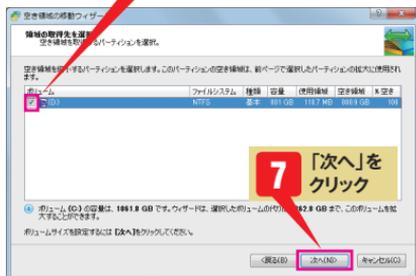
#### 2 「空き領域の移動」をクリック



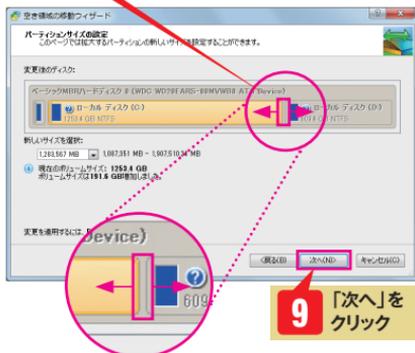
#### 「空き領域の移動ウィザード」が起動する



#### 6 領域を縮小するパーティションにチェックを入れる



## 8 パーティションの境界をドラッグして2つのパーティションの領域を指定



9 「次へ」をクリック

12 「はい」をクリック

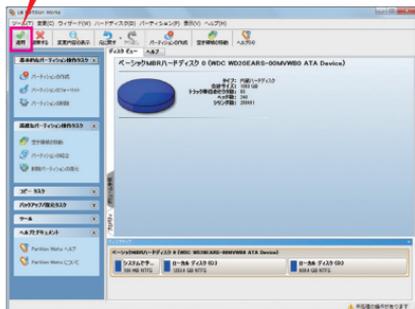
変更の適用を確認する画面が表示される



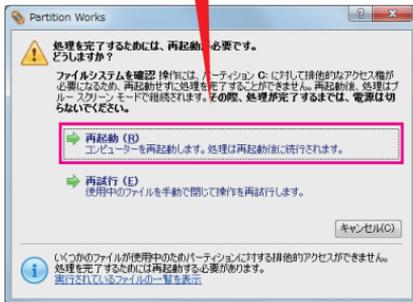
ウィザードによる作業が完了する

10 「完了」をクリック

11 「適用」をクリック



13 「再起動」をクリック



作業が始まり、しばらくするとこの画面が表示される

電源を閉じないでください。ディスク内のすべてのデータが失われる可能性があります。操作は「Esc」または「Ctrl+C」で中断できますが、データが失われる可能性があります。

ファイルシステムを複製	成功しました
ファイルシステムを複製	成功しました
パーティションの移動	成功しました
パーティションの移動	01分 25秒 残り

L# Partition Works  
Copyright 1999-2011 Paragon Software GmbH. All rights reserved.

再起動後にパーティションのサイズが変更される

！ パーティションの処理中は、絶対に電源を切らないでください。「適用」してもサイズ変更が実行されない場合はエラーチェックが十分でないか不良セクタがあります。エラーチェック結果をご確認ください。

# STEP 15

## Cドライブを大きくして、Dドライブを小さくする (マニュアル操作)

マニュアル操作でCドライブを拡大し、拡張パーティションのDドライブを縮小する方法を解説します。Dドライブが基本パーティションの場合、**1**～**4**、**10**～**16**の順番となります。

### 論理パーティションを縮小する

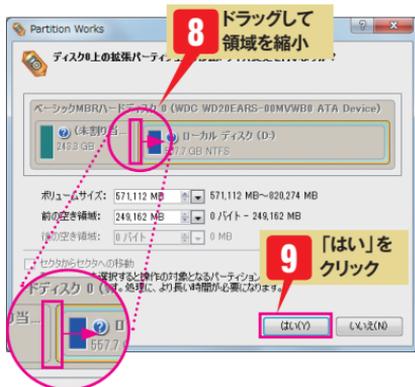
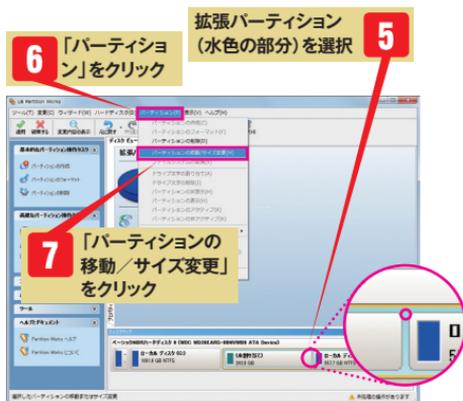
Cドライブを大きくして、Dドライブを小さくするときに、まずはDドライブを小さくします。Dドライブが拡張パーティションの場合、はじめに拡張パーティション内の論理パーティションを縮小する必要があります。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。



### 拡張パーティションを縮小する

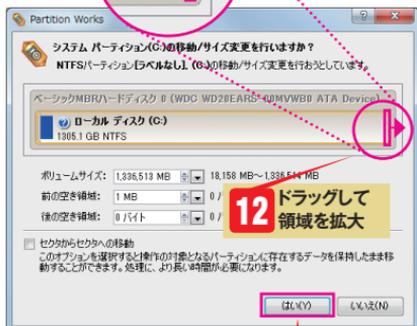
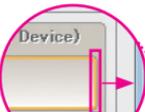
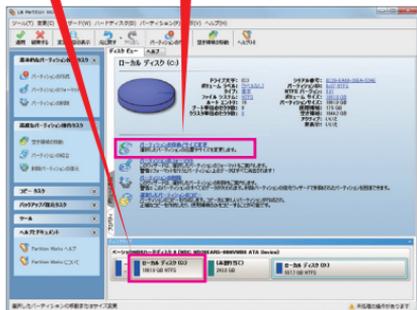
論理パーティションを縮小したら、拡張パーティションを縮小して、空き領域を作ります。



## Cドライブを大きくする

Dドライブを縮小したことで、Cドライブを大きくするための未割り当て領域が確保されました。あとはCドライブを大きくするように設定しましょう。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

10 Cドライブ  
を選択11 「パーティションの移動/  
サイズ変更」を選択12 ドラッグして  
領域を拡大13 「はい」を  
クリック

## 変更を適用する

Dドライブの縮小とCドライブの拡大の設定をしたら、設定を適用することで一度に2つのパーティションの大きさを変更できます。

14 「適用」を  
クリック

変更の適用を確認する画面が表示される



作業が完了すると結果が表示される

パーティションの処理中は、絶対に電源を切らないでください。

# STEP 16

## パーティションを結合する

隣り合った2つのパーティションを結合すれば、1つのパーティションとして利用できます。

### ウィザードから結合を行う

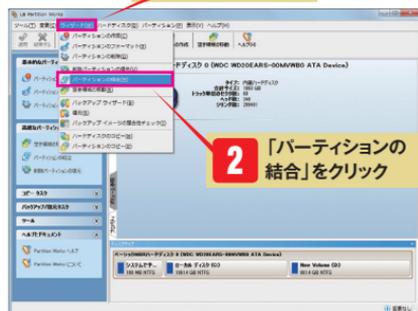
パーティションを結合する際には、元になるパーティションとそこに結合するパーティションを指定します。結合後は、元になるパーティションの中にフォルダが作成され、その中に結合されたパーティションのファイルが移動されます。

ただし、パーティションの結合は隣接した2つのパーティションのタイプ(基本/論理)やファイルシステム(FAT/FAT32/NTFS)が同一のものでなければなりません。

また、パーティションの結合には時間がかかります。CドライブとDドライブをひとつにまとめた場合には、Dドライブにあるデータを外付けハードディスクやDVDなどに移動後に、Dドライブを削除してCドライブを拡大した方が、処理時間を短縮できます。

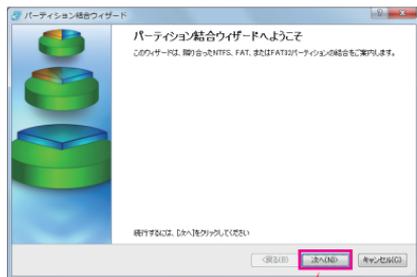
作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

### 1 「ウィザード」をクリック



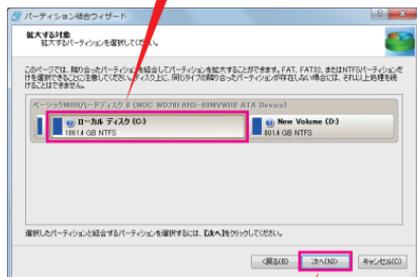
### 2 「パーティションの結合」をクリック

**!** パーティションの結合元と結合先を間違えると、Windows が起動できなくなります。また、結合するパーティションに各種ソフトウェアをインストールしている場合には、結合は行わないでください。十分に気を付けてください。

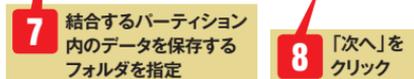


### 3 「次へ」をクリック

### 4 結合先(拡大したい)のパーティションを選択



### 5 「次へ」をクリック



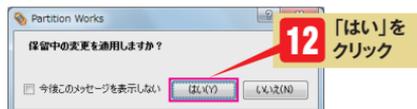
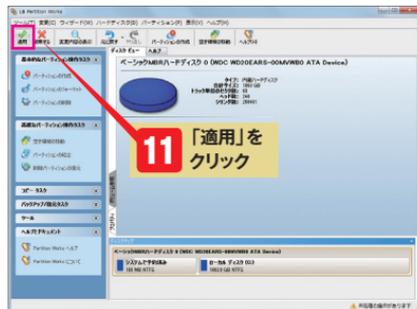
※フォルダ名は半角英数字で指定してください。



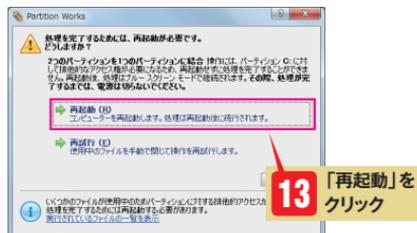
結合前と後の状態を確認する



ウィザードによる作業が完了する



変更の適用を確認する画面が表示される



再起動を促す画面が表示される



**!** パーティションの処理中は電源を切らないように注意してください。

# STEP 17

## パーティションを移動する

パーティションワークスでは、パーティションの内容を消さずに、ハードディスク上のパーティションの位置を変更できます。

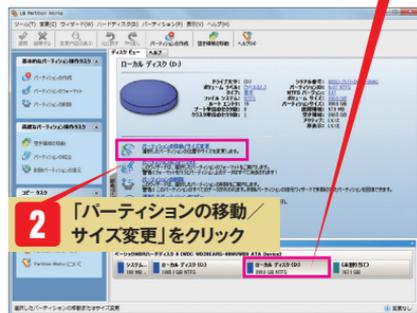
### パーティションを移動する

パーティションの移動には、移動したいパーティションの前か後ろに、未割り当て領域がある必要があります。なお、複数あるパーティションの順番を入れ替えることはできません。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

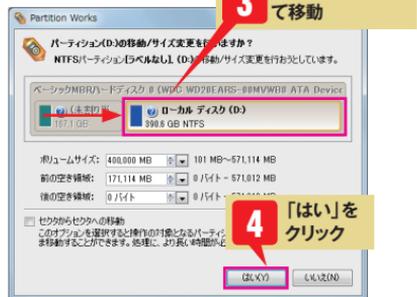
1 移動したいパーティションを選択

1



2 「パーティションの移動/サイズ変更」をクリック

2



3 マウスでドラッグして移動

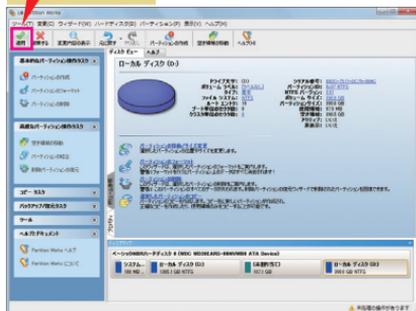
3

4 「はい」をクリック

4

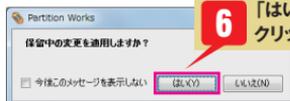
5 「適用」をクリック

5



6 「はい」をクリック

6



変更の適用を確認する画面が表示される



7 「閉じる」をクリック

7

作業の進行状況が表示され、完了すると結果が表示される



パーティションの移動には時間がかかります。その間、パソコンの電源を切らないように注意してください。

# STEP 18

## パーティションを非表示にする

パーティションを非表示にすれば、Windowsの「エクスプローラー」などからドライブが表示されなくなり、そのパーティションにアクセスできなくなります。

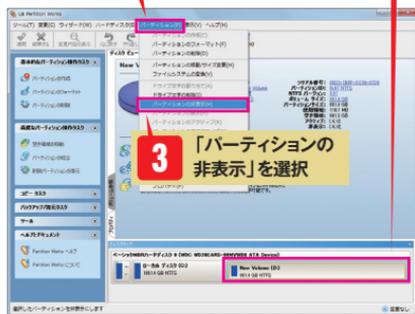
### ドライブを非表示にしてアクセスを制限する

Dドライブを非表示にして、アクセスできないようにします。また、非表示にしたドライブを表示するように戻すには、同様の操作をして元に戻すことが可能です。

対象のパーティションを選択

1

2 「パーティション」をクリック



3 「パーティションの非表示」を選択

**!** 起動に使っているCドライブなどを非表示にすると、他の動作に支障をきたす恐れがあるのでご注意ください。

パーティションを非表示にしますか？

パーティション(D:) New Volume (NTFS)を非表示にすると、ドライブ文字が変更され

4 「はい」をクリック



確認のメッセージが表示される

5 「適用」をクリック



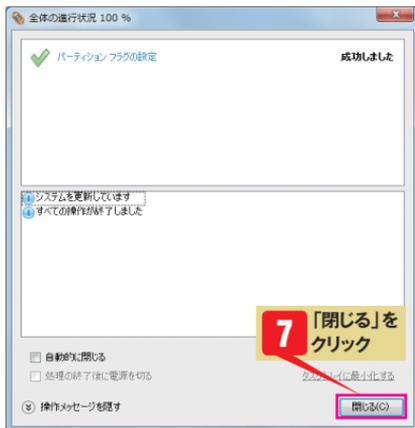
Partition Works

保留中の変更を適用しますか？

今後このメッセージを表示しない

6 「はい」をクリック

変更の適用を確認する画面が表示される



7 「閉じる」をクリック

作業が完了すると結果が表示される

# STEP 19

## 拡張パーティションをサイズ変更／移動する

拡張パーティションのサイズ変更や移動ができます。ただし、基本パーティションと違い、内部の論理パーティションのサイズ変更などを行ってから、拡張パーティションの操作を行う必要があります。

### 操作に関する注意点

拡張パーティションの中には、基本的に論理パーティションが割り当てられているため、基本パーティションのように自由なサイズ変更や移動ができません。

そのため、拡張パーティションの各種操作を行う前に、内部の論理パーティションの操作を行う必要があります。

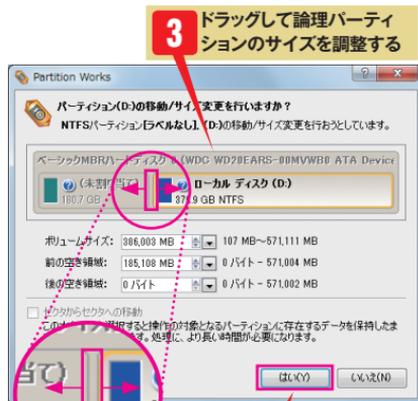
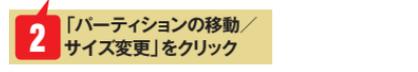
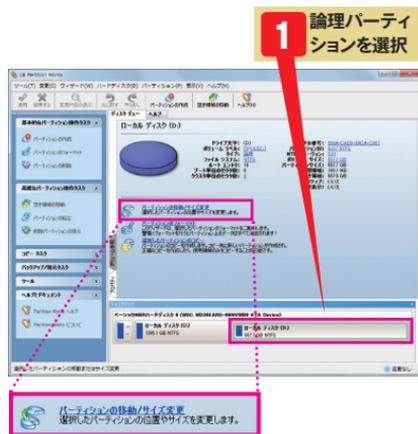
たとえば、拡張パーティションのサイズを小さくする場合、内部の論理パーティション以下のサイズにはできません。

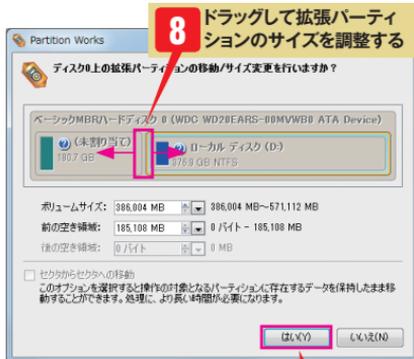
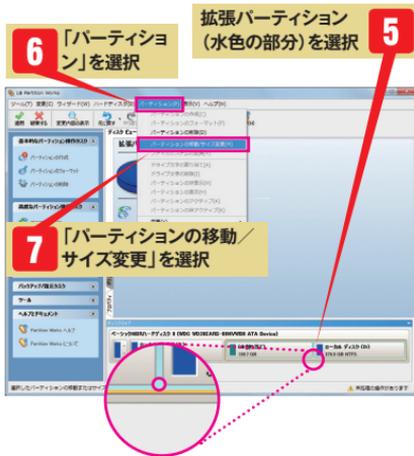
そのため、一度論理パーティションのサイズを小さくしてから、拡張パーティションを縮小するという2段階の操作が必要になります。

また、逆に拡張パーティションを拡大した後には、内部の論理パーティションを拡張するか、新しく論理パーティションを作成しなければ、拡張して増やした容量を利用することはできません。

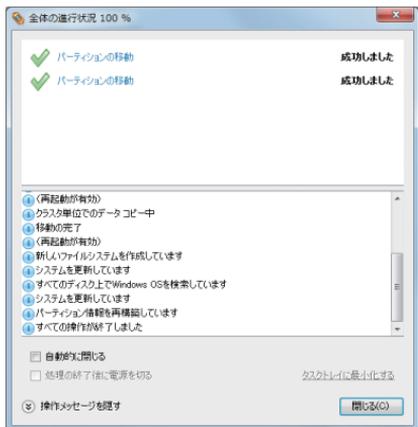
ここでは論理パーティションを容量いっぱいには割り当てた拡張パーティションのサイズの縮小方法を解説します。

**作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。**

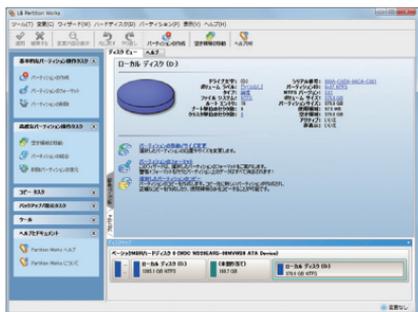




変更の内容を確認する画面が表示される



サイズ縮小の処理が始まり、  
進行状況が表示される



ディスクビュー画面で結果を確認する

**!** パーティションの処理中は、絶対に電源を切らないでください。

# STEP 20

## パーティションをコピーする

ウィザードを使って、対話形式で設定内容を順番に選択していくだけでパーティションをコピーできます。

### ウィザードを使ってパーティションをコピー

同じハードディスク内や別のハードディスクに、既存のパーティション以上の空き領域があれば、パーティションごとコピーすることが可能です。空き領域分「サイズ変更」(ステップ13)して「未割り当て」を用意しておきます。

ただし、システムが入ったパーティションを別のハードディスクにコピーしても、そのパーティションからパソコンを起動することはできません。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

#### 1 「ウィザード」をクリック

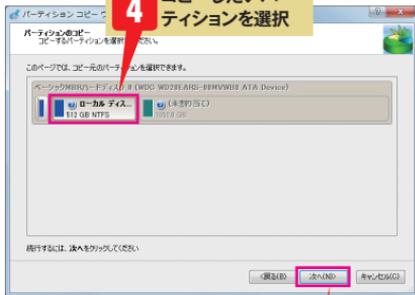


#### 2 「パーティションのコピー」をクリック



「パーティションコピーウィザード」が起動する

#### 4 コピーしたいパーティションを選択



#### 5 「次へ」をクリック



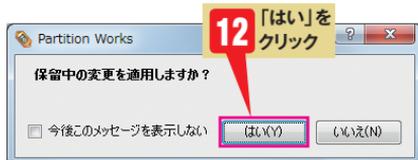
コピー先はパーティションが割り当てられていない未割り当て領域が必要



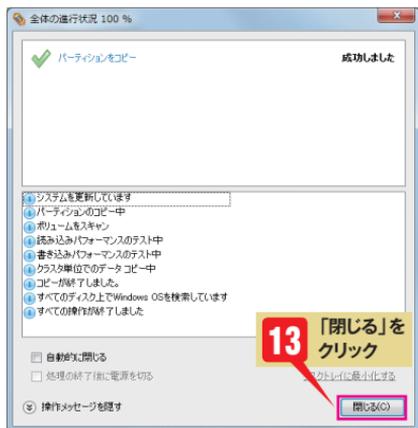
ここでコピーするパーティションのサイズを変更することもできます



ウィザードによる作業が完了する



変更の適用を確認する画面が表示される



作業が完了すると結果が表示される

# STEP 21

## ハードディスクを丸ごとコピーする

ハードディスクの内容を、丸ごと別のハードディスクへコピーすることができます。ステップ20のパーティションのコピーと違い、この操作でコピーした内蔵ハードディスクからパソコンを起動することが可能です。コピー先のハードディスクの容量に応じて、コピー後のパーティションサイズを調整することもできるため、同一のパソコンで大きな容量のハードディスクに交換するときなどに便利に利用できます。

### 状況に合わせオプションを選ぶ

ハードディスクのコピーには、多数のオプション(8)があります。状況に合わせて適切なオプションを選択しましょう。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。



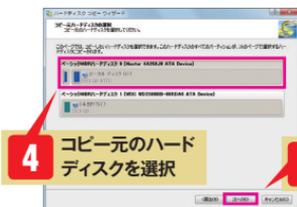
1 「ウィザード」をクリック

2 「ハードディスクのコピー」をクリック

「ハードディスクコピーウィザード」が起動する

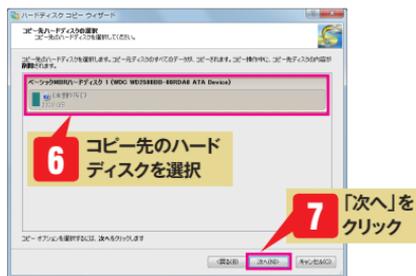


3 「次へ」をクリック



4 コピー元のハードディスクを選択

5 「次へ」をクリック



6 コピー先のハードディスクを選択

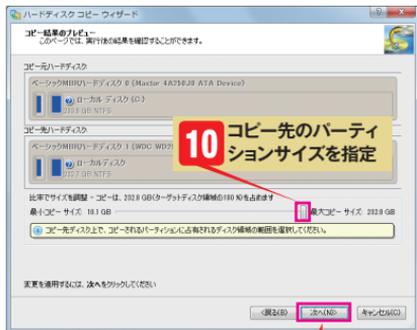
7 「次へ」をクリック

**!** 選択したコピー先のハードディスクにパーティションがあった場合、以下の画面が表示されます。操作を続行するとコピー先のハードディスクのパーティションは消去されます。コピー先とコピー元を確認の上、「はい」、コピーを続行します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックしてください。



8 コピーのオプションを選択

9 「次へ」をクリック



コピー前と後の状態を確認する

11 「次へ」をクリック



12 「完了」をクリック



変更の適用を確認する画面が表示される



作業の進行状況が表示され、完了すると結果が表示される。正しくコピーできたか確認する

## コピーのオプションの内容

### ●HDD RAWコピー（時間がかかります）

パーティション構造にとらわれずに、ハードディスクを丸ごと各セクタ単位で正確なコピーをする。なお、パーティションを拡大/縮小コピーすることはできません。

### ●パーティション間の空きブロックを削除します

コピー元のハードディスクにパーティション間の未割り当て領域があった場合、コピー先ではそれを削除する。

### ●パーティションRAWコピー（時間がかかります）

使われていない未使用のセクタを含めて各パーティションを丸ごとコピーする。なお、パーティションを拡大/縮小コピーすることはできません。

### ●データをコピーし、ディスクサイズに比例してパーティションサイズを変更します

コピー元の各パーティションの比率を維持したまま、コピー先のハードディスクに合わせて各パーティションのサイズを調整する。

# STEP 22

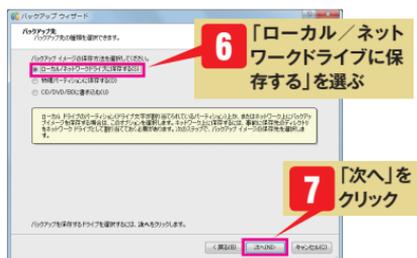
## バックアップする

「バックアップウィザード」を利用すれば、画面の指示にしたがってだけで、パーティションやハードディスクのバックアップが簡単に利用できます。ここでは外付けハードディスクにバックアップする例を説明します。

### ウィザードでバックアップ

バックアップウィザードでは、パーティションやハードディスクを丸ごと1つのファイルにまとめて、ハードディスク内の空き領域や別のハードディスク、CD/DVD/Blu-ray Discなどにバックアップすることができます。バックアップは圧縮して行われるため、実際のパーティションサイズより小さい容量で保存しておくことが可能です。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。





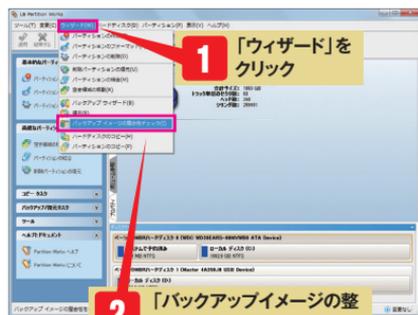
# STEP 23

## バックアップイメージを確認する

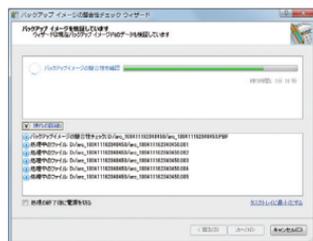
パーティションやドライブをバックアップした後は、バックアップイメージが正しく作成されたかの整合性を確認する必要があります。バックアップイメージの内容検証はウィザード形式で実行できます。

### バックアップイメージの検証

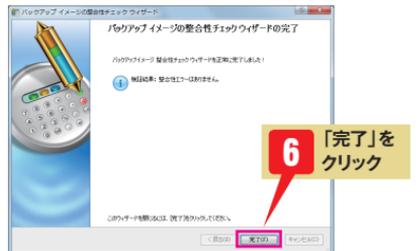
バックアップしたイメージから正しくシステムやデータを復元するには、バックアップイメージが正しく作られている必要があります。バックアップを行った後は、万が一のエラーに備えて、バックアップイメージが正しく作成されたかどうかを検証してください。この作業でエラーが発見されたら、ステップ3のエラーチェックを実行後にステップ22に戻って、再度バックアップを行いましょ。



フォルダを選択してもイメージファイルの詳細が表示されない場合は、フォルダ内の拡張子が「PBF」のファイルを選択してください



バックアップイメージの検証が始まる



検証の結果、エラーがなければこのような画面が表示される

# STEP 24

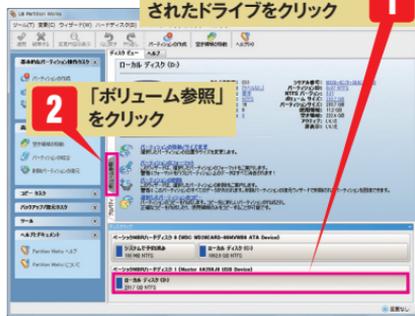
## バックアップイメージからファイルを抽出する

「ボリューム参照」機能を使えば、ローカルディスクに保存されたバックアップイメージからファイルを抽出することが可能です。

### ボリューム参照からファイルを抽出

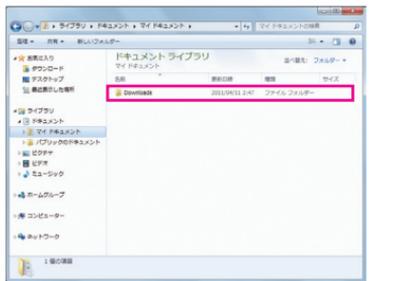
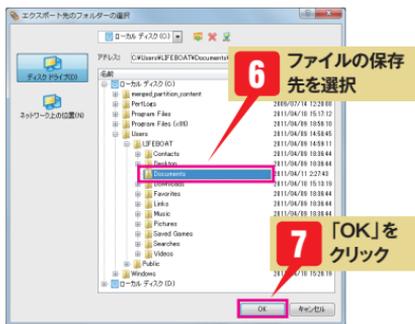
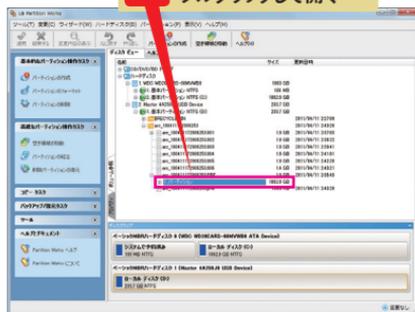
バックアップされたイメージファイルの中身は「ボリューム参照」機能を使うことで、確認できます。また、「ボリューム参照」で確認したバックアップファイルの中の一部の必要なものだけを抽出して、ファイルとして取り出すことも可能です。

バックアップイメージが保存されたドライブをクリック



「ボリューム参照」をクリック

バックアップファイルをダブルクリックして開く



指定したフォルダにファイルが抽出される

※イメージファイルの拡張子は「PBF」「P00」「000」などになります。

# STEP 25

## バックアップイメージを復元する

バックアップイメージファイルを保存しておけば、いつでもバックアップ時のハードディスクやパーティションの内容を復元できます。

### ウィザードを使って復元する

復元ウィザードを使えば、バックアップイメージを元にハードディスクやパーティションを復元できます。なお、復元するイメージファイルは、復元先以外に保存しておく必要があります(たとえば、Cドライブを復元するときには、バックアップイメージはDドライブなどに保存してください。また、ハードディスク全体を復元するときは、別のハードディスクにイメージを保存しておく必要があります)。OSがインストールされているパーティションやディスク全体を復元する場合は、製品CDから起動して操作を行ってください。CD起動の方法についてはステップ6を参照してください。



復元前にステップ23の手順でイメージファイルを検証してください。

1 「ウィザード」をクリック



2 「復元」をクリック



3 「次へ」をクリック

### 復元ウィザードが起動する



4 復元したいイメージを選択

5 「次へ」をクリック

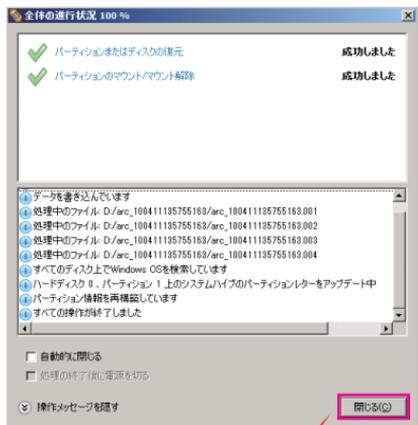
フォルダを選択してもイメージファイルの詳細が表示されない場合は、フォルダ内の拡張子が「PBF」のファイルを選択してください



6 「次へ」をクリック



**!** 復元先は注意して選択してください。復元先のハードディスク / パーティションの内容が削除されます。



再起動をして作業完了

**13** 「閉じる」をクリック

# STEP 26

## ファイルシステムを変換する

NTFSやFAT32といったパーティションのファイルシステムを変換できます。

### NTFS 形式のパーティションを FAT32 形式に変換

パーティションの内容に変更を加えずにパーティションのファイルシステムを変更します。この操作を行うと、NTFS形式のパーティションはFAT32形式に、FAT32形式のパーティションはNTFS形式に変更されます。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

**1** 変換するパーティションを選択

**2** 「パーティション」をクリック

**3** 「ファイルシステム」の交換を選択

**4** 変換されるファイルシステムを確認

**5** 「変換」をクリック

変換するパーティションを選択

「パーティション」をクリック

「ファイルシステム」の交換を選択

変換されるファイルシステムを確認

「変換」をクリック

**6** 「適用」をクリック

Partition Works

保留中の変更を適用しますか？

今後このメッセージを表示しない

**7** 「はい」をクリック

Partition Works

保留中の変更を適用しますか？

今後このメッセージを表示しない

**8** 「閉じる」をクリック

全体の進行状況 100%

✓ ファイルシステムの変換 成功しました

- ① パスワードをキャンセルしています
- ② ファイルとディレクトリをチェックしています
- ③ ファイルレトリバサイズの見直しを行っています
- ④ ファイル アロケーション テーブルを準備しています
- ⑤ データブロックを実装しています
- ⑥ ファイルを再編成しています
- ⑦ 新しいファイルシステムを作成しています
- ⑧ (再起動が推奨)
- ⑨ 新しいファイルシステムを作成しています
- ⑩ すべての操作が完了しました

自動的に閉じる

処理の終了時に電源を切る

操作メッセージを閉ずる

変換作業の進行状況が表示され、変換が完了すると結果が表示される

# STEP 27

## パーティションのタイプを変換する

基本パーティションや論理パーティションといったパーティションのタイプを変換します。

### パーティションタイプを変更する

一度作成したパーティションの内容に変更を加えずにパーティションのタイプを変更します。この操作を行うと、基本パーティションは論理パーティションに、論理パーティションは基本パーティションに変更されます。

作業前にステップ3で解説したエラーチェックを必ず実行してください。

2 「パーティション」をクリック

1 変換するパーティションを選択

3 「変更」を選択

4 「論理パーティション」に変換を選択

5 「はい」をクリック

6 「適用」をクリック

7 「はい」をクリック

変更の適用を確認する画面が表示される

8 「閉じる」をクリック

変換作業の進行状況が表示され、変換が完了すると結果が表示される

編集・制作 株式会社アスキー・メディアワークス アスキーDOTPC編集部  
発行 平成23年6月17日

---

■本冊子の内容についての質問は、インストール時の障害や不明点を含めて、お受けできません。

■本冊子の掲載内容の無断転載・複製を禁じます。

※パーティションワークスは、株式会社ライフポートの登録商標です。

※Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※なお、本文中には™、®は明記しておりません。

LB パーティションを簡単操作!  
パーティション  
ワークス14公式ガイドブック

